

出典:分散型発電新聞 2006年6月25日(日曜日)

新エネの新たな展開で議論 21日本紙シンポジウムで



「新エネルギーの新たな展開」をテーマに、本紙主催のシンポジウムが6月21日、東京・港区の虎ノ門パストラルで開催された。シンポジウムは、このほど

目指すべきはベストミックス

新たな枠組みが提示された新エネルギー政策の方向を探る意味で緊急開催した。シンポジウムでは、エネ庁の安居徹RPS推進室長による基調講演に続いて、安居氏を交えて約2時間のパネルディスカッションを行った。ディスカッションは、新エネの再定義の報告書をまとめた新エネルギー部会の部会長でもある柏木孝夫東京農工大大学院教授の司会によつ

シンポでは新エネ分散型拡大への課題を話し合った

て、ガス業界から草野成郎東京ガス副社長、新エネ事業者(風力)の立場から中村成人ユーラスエナジーホールディングス常務取締役、新エネやエネルギーサービス事業に詳しい井熊均日本総研創発戦略センター所長が加わって、新エネ政策転換による事業への影響や今後の展望などについて意見を述べ合った。

新エネ政策の転換については各氏とも、方向性は間違っていないとしながらも、新エネの枠組みでこれまで各事業者が取り組んできたことに対する位置づけの明確化、新エネを地域社会で活用するためのマイクログリッドなどの面的広がりを持つ効率的なエネルギー利用の仕組みに政策がどう配慮するのか、大規模と分散型のベストミックス、また、新エネや分散型を活用した省CO2サービス事業などの育成本などの斬新な議論が熱く語られた。